

## 第4学年創る科学習指導案

4年2組 指導者 田島大輔

### 単元 売り上げを伸ばすためには？～商品POPの制作から考える～

#### 1 本単元で子供が創出と受容、転移を行う価値

他者に伝える力

#### 2 本単元について

本学級の子供たちは、これまで学習や日常生活の中で、他者に物事を伝える経験をしてきた。しかし、多様な他者に合わせて、表現の仕方を選択したり言葉を変えたりすることまでには至っていない。多様な他者に合わせて、表現の仕方を選択したり言葉を変えたりすることは、相手によりよく物事を伝える上で大切なことである。それにも関わらず、私たち教師は、学校行事で司会などを担当する子供に原稿を与えたり、授業で話型を示して形式的に対話させたりするような指導をしている。そのような指導では、多様な他者に合わせて、表現する力は育まれない。多様な他者に合わせて自覚的に表現の仕方を選択したり言葉を変えたりすることで、自分の言葉で物事を表現することができるようになるのである。

本単元では、商品（ペン立て）を宣伝するためのPOPづくり等をとおして、多様な他者に宣伝する場面を設定する。そうすることで、多様な他者に合わせて、表現の仕方を選択したり言葉を変えたりすることのよさを感じ、自覚的に学習や日常生活で生かすことができるようにしたい。その際、商品の魅力を、多様な他者（消費者）に伝えるためには、どのような表現や言葉が必要なのか、子供たちが選択した理由に焦点化し、他者によりよく伝えるための考え方に迫っていききたい。

そこで、以下のような支援を具体化し、本単元でめざす子供の姿の実現を図る。

- 商品を宣伝する相手を指定したり変えたりしてPOPを書くよう促す。そうすることで、多様な他者に合わせて、表現の仕方を考えたり言葉を変えたりすることができるようにする。【創】
- 振り返りの際、表現の仕方を変えた理由を問う。そうすることで、多様な他者に合わせて表現することのよさに気付くことができるようにする。【受】
- 新社会人に向けた商品のCMを作成する。そうすることで、多様な他者に合わせて自覚的に表現の仕方を選択したり言葉を変えたりして伝えることができるようにする。【転】

#### 3 主としてねらう各教科等への転移

学年	教科・領域	単元
第4学年	社会科	わたしたちの山口県
第4学年	算数科	概数

社会科では、問題解決の過程において、創る科で扱う全ての価値が複合的に内在している。「わたしたちの山口県」の学習では、県の魅力を県外の人に発信する際に、本単元で学んだ多様な他者に合わせて表現の仕方を選択できることを期待したい。

算数科「概数」の学習では、正確な数と概数を扱う。その際、多様な他者に合わせて正確な数と概数を使い分ける。多様な他者を意識することで、概数の意味やよさを感じることができるようになる。

#### 4 指導計画（全3時間）

第1次 商品のPOPを作成する（1時間）【本時1／1】

第2次 商品のCMを作成する（2時間）

5 本時案 【令和4年10月22日 9:20~10:05 4年2組教室】

(1) ねらい 商品のPOPの内容について話し合うことをとおして、多様な他者に合わせた表現の仕方を考えることができるようにする。

(2) 学習過程 ※一重下線は創出、二重下線は受容、破線は転移に対応する子供の意識

学習活動・学習内容	子供の意識	○教師の支援
<p>1 商品のPOPについて話し合う。(35分)</p> <p>・多様な他者に合わせて、表現の仕方を考えること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このペン立てを売るのか。</li> <li>・お年寄りの方が買いたくなるためのPOPを作るのだって。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>どのようなPOPを書くとよいのかな。</p> </div> <p>A <u>値段や文字が見えやすいように大きくしてみよう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目立つために色をつけた方がよいのではないかな。</li> </ul> <p>B 落ち着いた色の方がよさそうだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・孫へのプレゼントでこの商品を買う人もいだろうから、「プレゼント用にも」という言葉を入れたらどうかな。</li> <li>・お年寄りの方のことを考えたら、買ってくれそうなPOPができ上がったよ。</li> <li>・次は小さい子に向けてPOPを作るのだって。</li> </ul> <p>A <u>小さい子は漢字が読めないからひらがなで書いた方がよいね。</u></p> <p>B <u>明るい色を使ったりキャラクターを入れたりした方が注目されるのではないかな。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字だけでなく、商品の使い方が分かる写真を入れたら、小さい子でもイメージができると思うよ。</li> <li>・このPOPなら小さい子が欲しくなるね。</li> </ul>	<p>○商品売る相手を指定し、POPを書くよう促す。そうすることで、買い手に合わせて、表現の仕方を考えることができるようにする。【創】</p> <p>○相手を変えてPOPを書くよう促す。そうすることで、相手が変わっても、買い手に合わせて、表現の仕方を考えることができるようにする。【創】</p>
<p>2 本時の学習を振り返る。(10分)</p> <p>・相手意識をもつことのよさ</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>お年寄りの方と小さい子の時では、どうしてPOPを変えたのかな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りの方に向けたPOPのままだと小さい子にはペン立てのよさが伝わらないからだよ。</li> <li>・<u>商品を買いたくなるPOPを作るためには、相手に合わせて、言葉や色などを変えることが大切なのだね。</u></li> <li>・相手に合わせて、伝え方を工夫するとよいだね。</li> <li>・今度は、POP以外でも宣伝する物を作ってみたいな。</li> </ul>	<p>○表現の仕方を変えた理由を問う。そうすることで、多様な他者に合わせて表現することのよさに気付くことができるようにする。【受】</p>

